

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 佐藤 千景

H23 年度 (入学)・編入

1. 研究課題:

ボツワナ・オカヴァンゴデルタにおける地域住民の漁撈活動と水辺の植物利用

2. 渡航先:

現地滞在期間: 平成 24 年 8 月 1 日 ~ 24 年 10 月 25 日 (89 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

ボツワナ国内においてこの地域に特有の自然資源と結びつく人々の漁撈活動と水辺の植物利用の実態を総合的に明らかにすることで、人々の自然資源の利用法、自然に対する認識について調査村の事例を基に検討することができた。調査村の歴史的変遷をみると、主に南アフリカから移住してきた白人による大規模な農場や観光ロッジの存在によって周辺村から多くの人々が移住したことで村が形成され、発展を遂げていた。調査地域における在来の生業と観光業との関係について興味深い知見を得ることができた。

また、派遣先であるボツワナ大学付属のオカヴァンゴデルタ研究所を訪れた際には、研究者や学生との交流をもつことで新しい人脈を広げると共に、文献資料も入手した。研究所では、申請者の調査地域であるオカヴァンゴデルタに関する幅広い研究が行われており、様々な情報・資料収集や、申請者自身の研究を発信する現地拠点を構築することができた。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今後の課題点としては、日本でできる資料収集や言語の習得などを、現地に赴く前に十分に行っていくことが挙げられる。そうした渡航前の入念な準備を基に、実現可能な具体的目的を設定して渡航に臨みたい。

博士予備論文の提出後には 3 か月以上の長期の渡航を予定している。本プログラムの成果は、今後の渡航で得られる成果と合わせて、申請者の博士論文やその後の研究の大きな枠組みの中に位置づけられる。派遣前の目的としても挙げていたように、将来は、研究成果を活用して、調査地域における自然保護政策や開発プロジェクトへ具体的な提言をすると共に、他地域への応用も可能とすることで、学問的な範囲に留まらない社会的還元を実践的に行うことを目指したい。また、海外での経験を多く積むことで、視野を広げ、研究にとらわれない様々な進路を考えていきたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムに参加することで、博士予備論文に向けた重要なデータを得ることができた。渡航先がアフリカということもあり、支援を受けなければこのような貴重な機会を得ることは難しかったと思う。また、自分の分野や地域に関わらず、他国の研究機関における研究者との交流や、現地の文化や言葉を学べるような短期の留学プログラムがあればぜひ参加したい。

*1 ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名